

## 日本プロテオーム学会（2015年～2017年理事）

### 2016年 第一回理事会 議事録

開催日時：2016年1月29日（金）14:30～18:15

会場：国際研究交流会館（国立がん研究センター築地キャンパス内）

参加者（50音順，敬称略）

足立，石濱，尾野，梶，上家，川上，木下，木村，小寺，小松，榊原，曾川，高山，朝長，中神，成松，服部，  
本田，松本，山本，横田（計21名）

欠席者（50音順，敬称略）

植田，久保田，長野，和田（計4名）

#### 1. 会長挨拶（朝長）

- (a) 昨年2月の理事会（2015～2017年理事 第一回理事会）で提案した事項が実現に向けて着実に進んでいる。
- (b) 学会主導の研究費獲得を目指す。

#### 2. メール理事会の実施状況、その他（小寺）

- (a) 熊本大会以降の学会通信送信状況説明（No.207～No.219）
- (b) 熊本大会以降のメール理事会開催状況説明（第9回～第13回）
- (c) 会員管理システムの整備
  - ◇ 2014年までの Convention Linkage のずさんな管理を引いで Design Link に依頼
    - 学会 Web に会員管理システムを構築。これにより、会員管理、大会参加者の管理、入会・退会管理が可能になってきたが、現状では事務局の作業部分で混乱があり、学会員に迷惑をかけている部分がある。
    - 北里大会に向けて、会員管理、大会参加者管理、学会費管理、入会・退会管理の連携面のさらなる整備を図る。

#### 3. 報告事項

- (a) 生化学会フォーラム（梶）（詳細は別添資料1 参照）
  - ◇ BMB2015 のワークショップ：初日の午前中にもかかわらず立ち見が出るほど盛況
  - ◇ 来年度の生化学会のシンポジウムの公募が既に開始
    - 2015/12/18 に企画を提出済み
    - シンポジウム分類：10：新領域、新技術 テーマ「プロテオーム大規模解析が切り開く新たな生化学研究」
- (b) トレーニングコース（足立，曾川）
  - ◇ 第2回トレーニングコースを2015年11月25，26日に医薬基盤研にて実施（足立）
    - ◇ アンケート等の詳細は別添資料2を参照

- 18名の参加者
- 培養細胞のタンパク抽出、酵素消化、TMT10plex ラベルなど一連の比較分析
- 実習に合せた座学も実施
- 参加者の満足度は非常に高かった
- 参加費について
  - ◇ 学会員になると参加費が安くなると伝えても効果なし(学会員にはならない)
- 理事会での各種意見
  - ◇ 学会員のメリットは参加費の違い? → 会員は 20000, 非会員は 30000。
  - ◇ 学会員を増やすことが目的なのでは? 学会員にならないのであれば意味がないのではないか?
  - ◇ 極端に価格設定に差をつける。(50,000 円と 20,000 円等)
  - ◇ 学会員に対するメリットは? プロトコル集のアクセス権限など。
  - ◇ メリットをもっと増やす。プロトコルを作る。学会誌で広めるとか。
  - ◇ 熊本の時には参加者と内容がミスマッチ感があり。2回目はよくマッチしている感じ。
  - ◇ 参加者募集について
    - 学会通信に流したことが功を奏したのではないか?
    - お知らせをロコミで実施した。
    - 実施内容を事前に明確化したことが効果あったのでは?
    - MS メーカー等に配ってもらうことが良いのではないか。
  - ◇ コストは:3分クッキング的に行ったので試薬代もそこそこかさむ。持ち出しもあるのではないか?
  - ◇ 質量分析学会は座学2日間 非会員は 50000、会員は 30000。目的は儲けること。ほとんど非会員が主。儲けることを目的としても良いのではないか?
  - ◇ 法人化、儲け、課税に関する議論
    - 儲けがあると税金が? 質量分析学会は法人なので問題なし。JProS は法人でないので問題あり? 法人である無しに関わらず税金は収める必要がある。
    - 大会も出入りが 1000 万超えると課税対象になるかも。年会費や大会参加費分は非課税。ただし、非会員が払う参加費は課税対象。企業からのランチョンなどの経費も課税対象。
    - 法人税と消費税があり(横田)。消費税は 1000 万超えると払う必要がある。企業からのお金の流れは課税対象。
    - 謝礼も源泉徴収する必要あり。国内の人だと源泉徴収はできる。
    - さかのぼって調べられる。HUPO 大会は大丈夫か? 動いたお金は相当額。
    - マイナンバー制があるので色々問題が出るのでは。
    - 法人にもマイナンバー相当のものがあるようだ。
- ◇ 第3回トレーニングコース(案)について(曾川)
  - 麻布大学、北里大学(相模原キャンパス)で5月27,28に開催予定(案として)
  - 実施内容:SDS-PAGE からのタンパク質同定。これとは別に、前処理例として血清メジャータンパク質の除去を並行して行う。
  - 募集期間は年度末から(締め切りは新年度)

#### 4. JProS 2016 年大会について(服部) (別添資料 3-1, 3-2 参照)

- 資料をもとに服部先生より説明
- ◇ 大会スケジュール、準備スケジュール、トレーニングコースに関する説明
- ◇ 2つのうちの1つのメイン会場は英語のセッションとする
  - これに関して、下記の意見が出た → 最終的には服部先生に一任
    - ◇ 日本語シンポジウムを増やしても良いのではないか? 特に外国人演者がいない会場では日本語でやるべきではないか。
    - ◇ 植田先生の意見として国際化を目指したいとの事
- ◇ 要旨について
  - 英語の要旨について → 現状と同じく両方のスペースを設ける、英語を書くか否かは自由
  - 所属とタイトルと名前は日本語と英語 併記、キーワードは英語。アブストはどちらでも。これが J-STAGE 登録の観点から最善

- ◇ KHUPO との交換講演について
  - KHUPO からの招待講演者には航空券と宿泊費のみ
    - ◇ 旅費をどこまで払うか明確化(空港から現地は?)
    - ◇ 宿泊費: 2泊3日
  - JHUPO からの招待講演者には謝金(航空券をカバーできるぐらい)を支払うと確約
    - ◇ 謝金は受け取れない場合は航空券と宿泊費を KHUPO に依頼
  - KHUPO での対応がよくない
- ◇ 企業のインデキシングを行う → 現時点では決まっていない、対応を考える

## 5. 臨時課題: 大会運営の余剰金の取り扱いについて(横田さんからの発案)(別添資料 4)

### 執行部からの提案

会員で参加は年会費は免除なので、現在は大会参加費から 2000 円を年会費として学会に戻している。  
余剰額を年会費として吸収(余剰金の額に応じて参加者のその年度の年会費が変化)。

- ◇ それは危ないのではない? 税金逃れと受け止められかねない。
- ◇ 参加者に返すのも無理
- ◇ 大会会計を独立に運営。余剰金は翌年に持ち越すのはありか?
  - 今までは、運営会社が収支合わせをしていた。
    - ◇ これは、税法上問題ないが、これによって、運営会社への支払額が非常に大きくなっていった。
      - 今後はこの方式を辞める。このために余剰金に関する議論が必要
- ◇ 余剰金対策
  - 余剰金は翌年に持ち越すのはありか? 専門家に聞かないとわからない。
  - 税金を支払う方向で行きたいが、
  - 現時点では学会年会費を上げる。大会は常に赤字になるように運営し、足りない分を学会から補填する方針。
- ◇ スポンサー集めについて
  - 今までは運営会社にスポンサー集めさせて、運営会社に一定額(15%程度)を払っていた
    - ◇ それを理事が集めても一定(15%)は持っていかれる
    - ◇ ここ数年は企画会社も集めきれていない
      - 結局、理事が声をかけて集めている

### 本件に関するまとめならびに今後行うこと

- ① 法人会員、大会協賛企業会員(学会規程に記載事項)を再度検討
  - 法人会員は今まで通り残したほうが良いのではないか。法人会員のメリットを明確にする。
- ② 大会運営に関する細則を作る
  - 横田さんからの案を参考に今後検討
- ③ 学会の法人化に向けて
  - 専属の税理士が必要
    - まずは税理士に必要な金額を知る必要あり(質量分析学会に聞く)

## 6. 学会誌の創刊と運営について(木下)(別添資料 5-1, 5-2, 5-3, 5-4)

- ◇ 資料をもとに木下先生から説明
  - 今までの経緯と決定事項(B案)について
  - まずは、日本が雑誌から

#### 本件に関する各種意見

- ◇ 投稿数が爆発的に増える可能性があるかも(特に中国等から)
  - 投稿料を設定(会員は無料)することで変な投稿をブロックする。
- ◇ コピペ対策は? IT 活用?
- ◇ 論文の種類に関する規程について
  - 和分誌なので原著論文の投稿は現実的にありえない。なので原著論文は受け付けないことを明示する必要はない
  - J-STAGE 登録もできてない段階で投稿する人はまずいないだろう。
  - 質を求めるタイミングではない。
- ◇ 学会誌運営に関するお金はどうするのか?
  - 現状ではB案でも足りない。

#### 本件ならびに付随事項に関する決定事項

- ① 投稿料(会員は無料)について投稿規定に明記。
- ② 投稿先等のオフィシャルなメールアドレス取得する(gmail 等フリーメール以外に)
- ③ 投稿委員用のメーリングリストを作る
- ④ 年度会費を上げる(参加理事全員の賛成で可決)
  - 年度会費の額は今後検討
  - ◇ 幽霊会員をスパッと切る、その上で予算を考えて、年会費の額を算出
    - メール理事会に諮る

### 8. HUPO Award Nomination について(朝長)

- ◇ 下記の5つの nomination を提案してください。朝長先生に連絡。
  - ◇ Science and Technology Award
  - ◇ Distinguished Achievement in Proteomic Sciences Award
  - ◇ Translational Proteomics Award
  - ◇ Discovery in Proteomic Sciences Award
  - ◇ Distinguished Service Award

#### 本件に関連した事項

以下について会員に問う(学会通信)

- ◇ HUPO の nomination について
- ◇ JHUPO 学会賞の推薦 (3月末には決定する必要あり)

### 9. 各委員からの活動報告

- ◇ 会計委員より(榊原)
  - 年度会費を105万円で計上して、実際は104万(法人25万、個人79万)
- ◇ C-HPP(Chromosome X) の次期担当を考える必要あり(山本)

### 10. その他、自由討論

- ◇ 質量分析学会の状況をもとにしたコメント(高山)

- 法人化は最近。法人化前にも税金を払っていた。税理士を契約。
- 質量分析学会誌はずっと和文英文混合(ほとんどオリジナル)。最近、英文誌を出した。その後、英文誌がオリジナルで元々の雑誌は広く読んでもらえるように変化しつつある。
- 年度会費の値上げは必要なのでは。
  - ◇ 編集委員等の負担が大きすぎる。
  - ◇ 蛋白質科学会は journal を持たない。会費は 5000 円。